2024年度　大阪府訪問看護実践研修事業
教育ステーション事業

あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーション

中野　幸恵

目標

1、事例発表会を実施し、各ステーションから報告された事例を、共有することで個々の看護の質の向上と高めるとともに地域の看護の質の向上の機会とする。

2、訪問看護の役割と現場を学ぶ場を設け、訪問看護就労希望者を増やす

3、多職種を対象とした電話相談の周知と活用数を増やす。

事例発表会

開催日：令和6年10月11日

テーマ：「暮らしを支える看護実践」

開催場所：オンライン（ZOOM）

目標人数：51名

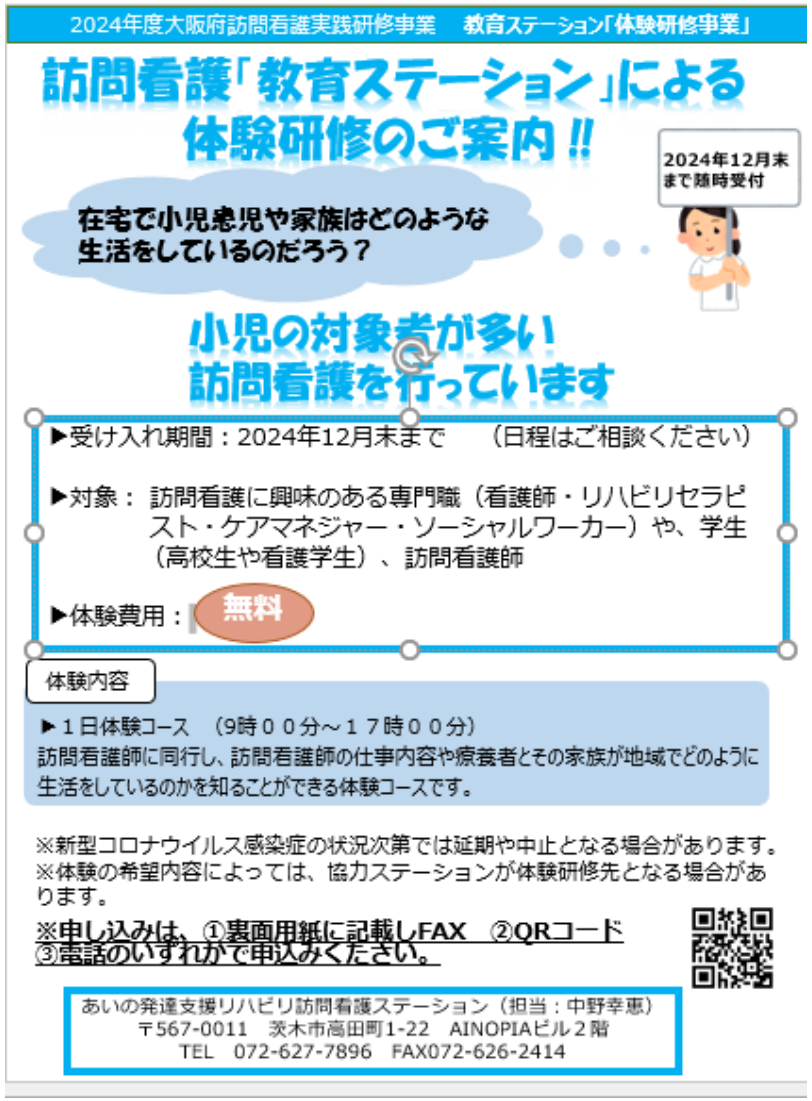
アンケート回収数：64名

事例発表会

今回の事例発表会は、勤務時間内に実施したことで出席しやすかったという意見が多かった。また看護師だけでなく、セラピストの発表もあり、多職種連携についてより認識、実感できた。講評担当者は心理職であり、多職種連携に対する心理的な描写や、対人職をする者の心理的な負担など織り交ぜながらの講評に、参加者からも利用者にケアする自分自身を振り返る場ともなったと意見が多くみられた。

今回の研修を通し、利用者を取り巻く資源は多岐にわたっているため、看護師だけでなく、多職種と一緒に教育を受ける場、発表する場が必要であると考える。

訪問看護体験研修



・体験研修参加者　５名
訪問看護での就労を予定されている看護師
育児中の作業療法士
産婦人科勤務の看護師
保育士など

・体験してみたいこと
ご自宅に伺い対象の子どもや家族とコミュニケーションをとりながら、実際どのように看護を提供しているのか。仕事内容も含めて体験したい。

8月以降広報開始し、数名の問い合わせがあった。子育てのため無職の参加者は、子育てしながら仕事もしたい、復職するにあたり自分の子育ての経験やこれまでの臨床での経験をいかしたいと意見があった。近隣の産婦人科に勤務している看護師は、障害を持つきょうだいと出産後の子育て支援など学びが多く、レスパイトできる場など連携していきたいと意見があった。
今回、子育て支援をされている保育士の参加があり、実際に医療とどのようにつながっているのか知る機会になった。子育て支援をする中で看護師という職業に興味を持ち始めたと話していた。

電話相談事業

・相談件数
訪問看護ステーションより　２件

・相談内容
実務的な内容　　２件

・効果と課題
認識している内容が正しいのか確証がもてなかったなどから相談に
至った内容であった。

知識の向上には関連書籍や情報など常に最新のものを収集することが必要であり、このような情報が掲載されている書籍が発刊されていることや、公的機関が公表している最新情報の周知も必要であると感じた。
発達支援、子どもへの支援への相談であった。
年々増えている不登校についてや、登校支援についての質問があり、地域の問題としてステーションとしても発信していく必要があると実感した。

目標の評価と次年度の課題について

三島ブロックでは今年度から3つの訪問看護ステーションが教育ステーションを担っている。
各教育ステーション内で役割や研修内容を分担して計画・実施ができた。
またお互いに連携し、研修会の準備から実施まで協力しあい実施したことで、教育ステーションとして地域への貢献的活動ができた。

当ステーションは昨年度から教育ステーション事業を担ったが、三島ブロック内で他の教育ステーションに助けてもらうことが多かった。次年度以降は、三島ブロックの一員として、教育ステーション事業に協力できるように積極的に研修会へ参加したいと思います。